

令和元年度 第3回さいたま市民大学運営委員会 議事録

1 開催日時

令和2年1月22日（水） 午前10時00分から正午まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 9階 学習室1

3 出席者

〈委員：9名〉

- ① 神保 富美子 委員長
- ② 安藤 陽 副委員長
- ③ 青木 光美 委員
- ④ 五十嵐 裕子 委員
- ⑤ 岡崎 滋 委員
- ⑥ 寺田 道子 委員
- ⑦ 難波 陽子 委員
- ⑧ 平田 利雄 委員
- ⑨ 山崎 秀雄 委員

〈各連携施設職員：6名〉

- ① うらわ美術館職員 1名
- ② 博物館職員 1名
- ③ 大宮西部図書館職員 1名
- ④ 青少年宇宙科学館職員 1名
- ⑤ 人権政策・男女共同参画課職員 2名

〈事務局：7名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|--------------|-------|
| ① 館長 | 吉田 治士 |
| ② 参事兼副館長 | 中村 和哉 |
| ③ 参与 | 野崎 隆史 |
| ④ 主幹兼事業・企画係長 | 荻原 唯史 |
| ⑤ 事業・企画係主査 | 榎 進吾 |
| ⑥ 社会教育指導員 | 伊藤 紀子 |
| ⑦ 社会教育指導員 | 渡邊 京子 |

4 欠席者名

〈委員：2名〉

- ① 桑原 静 委員
- ② 堀尾 健一郎 委員

5 協議事項

- (1) 令和2年度さいたま市民大学各コース(案)について

6 配布資料

事前配布資料

- (1) 令和2年度 さいたま市民大学 (案) について【資料1】
- (2) 令和2年度 さいたま市民大学各コース (案) について【資料2】

当日配布資料

- (1) 令和元年度第3回さいたま市民大学運営委員会次第
- (2) 令和元年度第3回さいたま市民大学運営委員会席次表
- (3) 令和元年度第2回さいたま市民大学運営委員会議事録 (案)
- (4) 令和元年度さいたま市民大学実施状況について
- (5) 運営委員会等のスケジュールについて

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 協議内容

第2回さいたま市民大学運営委員会議事録 (案) の承認後、協議事項を検討。

協議事項 (1) 令和2年度 さいたま市民大学各コース (案) について、資料1、資料2に基づき、生涯学習総合センター及び各連携施設より説明後、協議事項を検討。

神保委員長	1回目、2回目で、かなりご意見をいただいた。今回は内容というよりも、沢山の幅広い人に来てもらうためには、どういう発信がいいかPRを中心にご意見をいただきたい。
青木委員	「教養コース」の第1回は、基調講演にふさわしいような全国的に有名な若宮正子さんで、この講座だけ席を増やすことが可能かどうか。そのお話をぜひ聞きたいというシニアの方多いのではないかと伺いたい。

<p>榎事業・企画 係主査</p>	<p>現在の仕組みだと、全5回通して聞いていただくというのが原則となっている。「観光・交通コース」については、講座を分けることにしているが受講料の関係や要綱などもあるので、そこを踏まえて検討していきたい。</p>
<p>五十嵐委員</p>	<p>「教養コース」の第4回の急速に普及する家庭向け遺伝子検査の世界ということで副題を作り、遺伝子検査が役に立ったなど具体的なものが書いてあった方が分かりやすいのではないかと。</p>
<p>荻原主幹兼事業・企画係長</p>	<p>分かりやすく伝わるような形でいきたい。医療の診断ではなく、いろんな可能性について自分で調べてみたらどうか、またそこから展開される遺伝子のビジネス、経済にも繋がる部分を、社会貢献の一つとして、今回市民大学でお話をいただきたいということで計画している。</p>
<p>岡崎委員</p>	<p>3番の「ビジネススキルコース」について、市民大学のパンフレットで、全部のコースが一覧になって1冊のものと、コースによっては、一枚ベースの説明の紙のものも見かけるが、ビジネススキルコースに関しては、演題の言葉だけを聞いても分かりづらいので、具体的なサンプル、そういうようなものをつけて説明をするというのではないかと。</p> <p>講師肩書きのところ、1人除いてすべて中小企業診断士と書かれている。これは資格だと思う。民間企業の研修を受けたことがあるが、とても上手。費用的なこともあるが検討したのか。</p>
<p>榎事業・企画 係主査</p>	<p>「ビジネススキルコース」の広報をどのような形で届けていくかというのも、課題としている。実際のチラシの作成に向けて、少しでも分かりやすいものということで検討していきたい。講師の肩書きについては、今年度の「ビジネススキルコース」のコンサルティングの会社の方に企画の説明をした上で、講師のご紹介をしていただいた。受講者が魅力を感じるような肩書きがあったら、記載を追記していきたい。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>「ビジネススキルコース」は、今年の委員会でターゲットを決めた時に、抽選について話があったが、今年の実績としてビジネスコースは51.8歳とかなり上の年齢となる。定数オーバーの時は若い方を優先するとか、そういうことは考えられるか。</p>
<p>吉田館長</p>	<p>今年度当初に、抽選については対象の年代を考慮した抽選をする旨のご意見をいただいて、「観光・交通コース」の中で親子優先というのを考えている。「ビジネススキルコース」についても検討したい。</p>
<p>榎事業・企画 係主査</p>	<p>「ビジネススキルコース」に関しては、定員がもともと40人ということで、定員を超える応募があった。会場を10階多目的ホールという広めの所を設定しているので、来年度も定員を超える場合については、講師と相談し、少しでも多くの方が受講できるような配慮をしていきたい。</p>

青木委員	<p>「地域活性コース」について、「ビジネススキルコース」と一緒に興味を持つ層が、若いビジネスマンやこれから広報や経営企画などの業務に就く方が、水曜日のこの時間に仕事を半休取って行こうとか。会社によっては、勉強になるから業務時間内に行っておいでと言われてもらえるような、チラシなど紙にしなくても、フェイスブックなどで情報発信して、この講座自体が、こういう目的でやっていて、こういう話が聞けるんだよというのが事前であれば、会社の中で参加しやすい雰囲気になる。さいたま市内の中小企業の業務の方の発展にも繋がる。参加しやすい雰囲気や広報の仕方など、ビジネスマンの方が参加しやすいよう配慮いただきたい。</p>
安藤副委員長	<p>「地域活性コース」、早めに演題を決めて、PRしていけばいいのではないかと。</p>
寺田委員	<p>前は「文学コース」が週2回あった。週2回は多いのではないかとのご意見をさせていただいたが、今回このような形で内容も世界の文学と日本と2つに分けたコースになり、参加しやすくなったのではないかと。日本のコースでは大河ドラマに関連付けた内容になっている。公民館が主催する歴史講座でも、大河ドラマの舞台や関係したことだと人が集まりやすいので、とてもいいコースだと思う。</p>
難波委員	<p>「観光・交通コース」は親子優先というのがあるが、子どもの対象年齢は、明示した形で募集されるのかどうか。あと「食と健康コース」と「暮らしとお金コース」、いずれも託児付きになっているが、時間が平日午前中で「食と健康コース」はおそらく0歳から3歳ぐらいの幼い子供たちが集まることが想定されるが、「暮らしとお金コース」は土曜日なので、小学生など広範囲の託児が考えられるのではないかと。「暮らしとお金コース」は年齢制限が必要なのかなというふうに考えている。それぞれの対象年齢はどのぐらいなのか。</p>
吉田館長	<p>「観光・交通コース」の対象年齢は、鉄道博物館や日本航空と相談しながら調整し、決定したい。</p>
榎事業・企画係主査	<p>託児の年齢については、未就学児までと託児ボランティア団体にお願いをしている。12番の「音楽コース」は、あえて託児をつけていない。講師と相談し、お子さんも一緒になって参加していただけるような内容ということで、年代、性別を問わず幅広く参加いただきたいということで、託児はつけないという判断にした。</p>
難波委員	<p>「音楽コース」は来たいお子さんは拒まないというようなイメージか。小学生中学生という形なのか。</p>
青木委員	<p>10番「観光・交通コース」について応募で親子優先というと、例えばお母さん1人に対して、子供は小4以上で2人とか、家族単位で応募するようなイメージか。お父さんと息子さんの応募が多いイメージだが、鉄道博物館は、例えば弟さんがいて、申込としては、お父さ</p>

	<p>んとお兄ちゃん。下のお子さんも一緒に行くことは可能ではないか。現地でその時間は別行動で、可能かなと思った。応募に対して、1組で応募となった時に、上の子だけ座学に耐えられる子で応募しておいた方がいいのかとか、蓋をひらいてみるとお子さんの特性とかによって違うと思う。座学の会場は大変になってしまうかもしれない。</p>
吉田館長	<p>「観光・交通コース」はどれも応募が多数予想される。家族単位となると、行かれる方が制限されてしまう。鉄道博物館に関しては、座学とセットで行ける方など人数制限を設けたい。日本航空については、安全性ということで個人情報登録しての応募になるので、人数制限をかけていきたい。特に、土日に日本航空の見学は難しいので殺到すると思われる。</p>
岡崎委員	<p>9番の「市民企画コース」について、前は土日開催ということだったが、6月の木曜日開催に変わっている。6月第2週目、3週目は「文学コース」と「教養コース」が水曜日に入り、「市民企画コース」が木曜日に入り、2週間は週4回開催。参加者の対象、ターゲットが違ふと意見はあるかと思うが、平日コースというのは相当参加者がダブっているのではないかと。可能であれば、参加者の立場からすると調整したほうがいいのではないかと。</p>
神保委員長	<p>新たな方や、バラエティにとんだ人が来るというチャレンジでもある。可能であれば組み替えてもよいが、日程はかたまっているところもあるのではないかと。</p>
野崎参与	<p>日程の変更については、難しいところが現実。来年度以降なるべく重ならないよう、もし重なるときには、考えていきたい。</p>
寺田委員	<p>市民大学は受講者にお金がかからなかったと思うが、実費やお金のかかるコースはあるか。</p>
榎事業・企画 係主査	<p>市民大学については、他の公民館の講座と異なり、受講料をいただくような形式。パソコンコースなど、テキストが必要なものについては実費負担をしていただいている。地域ボランティアコースのような、地域還元を目的としたボランティアになるためのスキルを学ぶ講座や科学コースのような、お子さんを対象としている一部のコースは、無料という形をとっている。実費負担について、やはり最低限の負担をいただくことになるので、その辺りがわかるような形で募集案内に明記したい。</p>
平田委員	<p>「観光・交通コース」は今までの面白いコースで、対象も従来の市民大学ではなく、新しい分野で非常に楽しみ。羽田に行くときにこちらから集めて、バスで行くのか。もしくは引率して行くのか。現地集合、現地解散なのか。</p>
吉田館長	<p>現地集合ということで考えている。自宅から現地に行くまで保険対象となっている。それをPRしていきたい。</p>

五十嵐委員	<p>先ほどの託児のご質問もあって、事務局の説明も伺って、手間と費用のことがあるので、残念ながらすべてには託児はできないというところだが、子育てをしている世帯がいつもの生活から離れて、美術や歴史の話をしたとか、そういう機会があればいいかなと思ったので、希望として伝えさせていただく。</p> <p>「食と健康コース」のテーマが、人生100年時代の食と健康、若い時からの積み重ねが大事だが、このテーマをみると、比較的高齢の方を対象としたものかなと。託児が必要な未就学のお子さんがある方に対しても内容を伝えられるようなサブタイトルにしてほしい。</p>
野崎参与	<p>高齢者向けのようなイメージがあるので、若い層にアピールできるようなキャッチフレーズを考えたい。</p>
安藤副委員長	<p>一つのコースで、続けて受講していただくという形式をとっているが、まとまって聞いてもらうものと少しバラバラにしていくものと、メリハリを考えながら、作られたらいいのではないか。内容を詰めていくとコースの方がいいのか、単発の方がいいのかという問題はあるが、多くの人に聞いていただくチャンス、再度市民大学を地域に広めていくという意味では、単発的なところで集めるのもいいかなと思う。これは今後の課題でご検討いただければと思う。</p>

1 0 その他（令和元年度さいたま市民大学実施状況について、運営委員会等のスケジュールについて）

令和元年度さいたま市民大学実施状況、来年度の運営委員会のスケジュール等を生涯学習総合センターより説明の後、閉会。

1 1 閉会